



明德中学校区小中一貫だより

呉市立明小学校・明德中学校

令和6年7月19日

昨年度より、明德中学校区では呉市教育委員会から「小中で創る『未来の学び』実践事業」の指定を受けて、子ども達が今までよりもっと主体となって学習を進める授業づくりに取り組んでいます。授業の中で、子ども達が課題解決に向けて、自分達が考えた方法で、自分達で学びを進める学習を「めいとく・トライ」と名付け、楽しんで学べるように工夫しているところです。10月22日（火）には公開研究会を行い、本中学校区の子供達の学びを他校の先生方にもご覧いただく予定です。

それに向けて1学期は、「子どもが進める『めいとく・トライ』」の取組を通して、自ら判断し意欲的に自己を表現する子どもを育成することを目指し、小中で全体研修を行い、協議を重ねました。授業では、子ども達が自分で学び方を選択・決定したり、友達と学び合ったりする場面が増え、自分達が学びを進めていこうとする姿が少しずつ見られるようになっていきます。

今後も授業の中で「子どもが進める『めいとく・トライ』」の取組を続け、子ども達の「やりたい！」を生かし、学びを深めることができるよう、研究に努めて参ります。

【今年度の研究主題】

自他を尊重し、自ら考え判断し、意欲的に自己を表現する子どもの育成
～ 子どもが進める「めいとく・トライ」の取組を通して ～

子ども達のもつ可能性や力を最大限に引き出すために、主に次の3点に取り組んでいます。

- ① 心身の発達の段階や特性を踏まえた「個別最適な学びと協働的な学びの充実」
- ② 多様な他者と協働した探究的な学びを通じた
「地域の構成員の一人としての参画意識及び自己有用感の育成」
- ③ 地域の災害リスクを踏まえた「防災教育の深化」

3つの目標を実現するために、小中合同で2部会を設け、取組を進めています。

<授業改善部会>

- (1) 「めいとく・トライ」の構築・推進
 - ・ 子どもが追究したい「問い」の設定
 - ・ 子どもが自己調整しながら進める学習
 - ・ 振り返りの充実
- (2) 特別支援や児童生徒理解の視点を取り入れた一人一人に寄り添う教育活動の推進
 - ・ 児童生徒の学習課題に応じた学習フリータイム・家庭学習

<つながり部会>

- (1) 地域の構成員としての意識の育成
 - ・ 児童生徒が主体となり、企画・運営する行事や学習活動の推進
 - ・ 異年齢の子どもや地域社会など、世代を越えた交流の場の設定
- (2) 家庭・地域を巻き込んだ防災教育の深化に向けた取組
- (3) 生活習慣を再認識させるための取組
(小:歯磨き 中:メディアコントロール)
- (4) SELを活用した共感的な人間関係の育成

令和5・6年度「小中で創る『未来の学び』実践事業」

【1学期の取組から】

4月17日(水)小中一貫教育 総会・研究部会



一人一人が学びのまん中
「めいとく・トライ」

今年度初めての全体研修会では、「小中で創る『未来の学び』実践事業」の方向性や取組を交流しました。その上で、どのような授業づくりを行えば「子どもが進める『めいとく・トライ』」になるか話し合いました。

6月10日(月)中学校研究授業(2年生)



第2回の全体研修会では、明德中学校第2学年の数学科「式の計算」で研究授業を行いました。子ども達は、3つのコースから自分が挑戦してみたいコースを1つ選び、個人で考えた後、グループで計算の仕方について話し合いました。全体の交流では、他のグループが聞いて納得できるよう、分かりやすい説明を行うことができました。

7月2日(火)小学校授業研究(4年生)



第3回の全体研修会では、明德小学校第4学年の算数科「小数」の授業研究を行いました。学習のゴールを「学習したことを使って条件に合う社会見学計画を立てよう」とし、「小数」の単元で学習したことを活用する授業でした。子ども達は、主体的に小数で表された道のりを比べたり計算したりし、楽しんで学びを進めていました。

